令和6年度における物流生産性向上推進事業活用事例

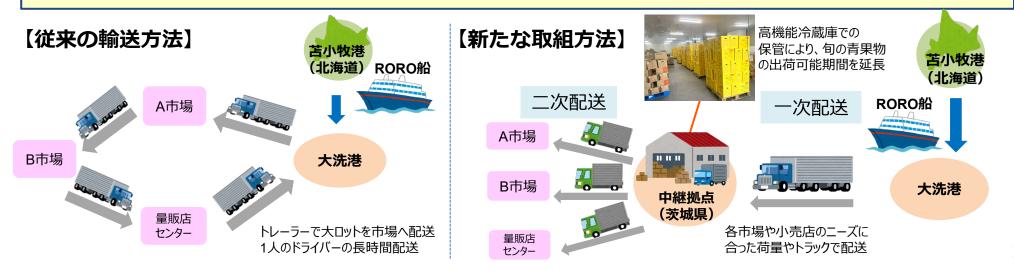


令和7年3月 大臣官房新事業·食品産業部

〇 中継物流の取組事例(北海道産青果物の長距離輸送)

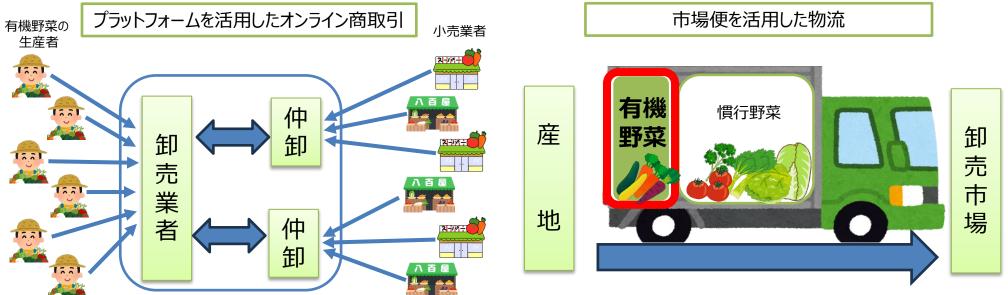


- 北海道産のスイートコーン、ブロッコリー等の夏野菜を含む青果物の輸送
- ・ <u>北海道苫小牧港 (RORO船利用) → 茨城県大洗港 → 関東の市場や小売店</u> 【従来】
- 大洗港から1台の20 t トレーラーによる長距離輸送。1人のドライバーを8.4時間拘束。【令和6年度からの新たな取組】
- ・ 茨城県常総市に中継拠点(水海道市場)を設け、一次配送と二次配送に切り分け (一次配送:大洗港→水海道市場、二次配送:水海道市場→関東各地)
 - → 大洗港発の20 t トレーラーのドライバーは一次配送を担当 (拘束時間は1~3時間に)。
- → 二次配送は、各市場や小売店のニーズに合った荷量やトラックで、随時実施 (拘束時間は4.4時間)。
- 中継拠点では高機能冷蔵庫で青果物を保管。流通可能時期を数週間延長することが可能に。
 - → 廃棄口スの削減に加え、夏野菜を秋にも新鮮な状態で購入できるという消費者メリットも。



〇 有機農産物の共同輸送の取組事例(東京都中央卸売市場板橋市場)

- -8
- ・ 一般的に小口取引が多い**有機農産物 →** 物流コスト低減のためには**取引ロットの大型化**が必要。
- ・ このため、「有機農産物オンライントレードプラットフォーム」を構築し、以下のような取引を実証試験。
 - ① 生産者 : 出荷計画と希望単価をシステムに登録。
 - ② 卸売業者:出荷情報に基づき、卸売数量・価格 (手数料込み)を仲卸業者に提示。
 - ③ 仲卸業者:**小売業者の注文を取りまとめ**、卸売業者と取引条件を決定。
- ・ **産地から卸売市場への輸送**は、いわゆる「市場便(産地から卸売市場に農産物を運送するため、定期的に運行しているトラック事業者)」の荷台の空きスペースを活用。
- ・ 大ロット化された有機農産物の小分け作業は、有機JASの小分け認証を有する仲卸業者が実施。
 - → 以上の取組を通じ、有機農産物の物流コスト30%削減を目指す。



〇 卸売市場内の搬送作業の省力化(金沢市中央卸売市場)

- -8
- ・ 令和6年度、金沢市中央卸売市場の青果部において、無人搬送車(Automated Guided Vehicle, AGV)の導入による搬送作業の省力化に向けた実証事業を実施。
- ・ 卸売市場に入荷した**ミカン (パレット積み) を専用架台**に載せておくと、無人搬送車が、それを下から 持ち上げ、**プログラムで指定された場所に自動で移動**。
- ・ その後、無人搬送車は、**業務時間外 (日中)** に、翌日 (夜間〜早朝) の出荷作業の効率化のため、 **商品の並べ替えを自動で実施** (翌日出荷分の商品をトラックバース付近に並べ替え)。
 - → 以上の自動化により、荷受作業員の作業時間30%削減、作業人員の40%削減を目指す。

[AGV]





パレットを載せて、架台の下に潜り込んで、リフトのように荷物を持ち上げて搬送する**低床型AGV**を2台導入

【入荷】



パレットに積まれたミカンを 専用架台に載せる

【移動】



設定されたプログラムで指定された場所に自動で移動

【並べ替え】



業務時間外に商品の並べ替え を自動で実施

〇 モーダルシフトの取組事例(高知県のピーマン生産者)

- -8
- ・ **高知県のピーマン生産者4名**は、ピーマンの鮮度を維持しつつ、トラック輸送への依存度を軽減するため、**関東の市場への航空輸送(旅客機の床下スペースの活用)の取組を開始**。
- ・ しかしながら、現状では集出荷施設での選果・箱詰めが長時間の手作業。
 - → 空港にピーマンを運ぶトラックに待ち時間が発生。飛行機の出発時間に間に合わない場合も。
- ・ このため、集出荷作業の一部を自動化するための機械を導入。
 - → 作業時間・経費を30%以上削減。
 - → トラックの待ち時間を縮減。飛行機の出発時間前に確実に空港に届けることが可能に。
 - → 従来より早い時間の出荷も可能になり、関東市場に加え、北海道への出荷も可能に。

作業の一部を自動化

【牛産者】 【集出荷場】 【高知空港】 【関東市場】 集荷 積付け 選果 箱詰め 関東市場向け 16:00 13:30出荷 22:00 【北海道市場】 北海道市場向け 13:00 選果機への自動投入機 自動段ボール組み立て機 11:00出荷 早朝 収穫

23:00